

サッカーの全国高校選手権第2日は31日、さいたま市の浦和駒場スタジアムなどで1回戦15試合が行われ、徳島市立は帝京長岡（新潟）と戦い、1-1からのPK戦を5-4で制し、2回戦に進出した。2回戦は2日で、徳島市立は午後0時5分からNACK5スタジアム大宮で聖和学園（宮城）と対戦する。このほか、市船橋（千葉）や長

全国高校選手権

崎総合科学大付、滝川二（兵庫）、東海大仰星（大阪）、山梨学院、前橋育英（群馬）、鹿児島城西などが2回戦に進んだ。夏の全国高校総体覇者の市船橋は京都橘に1-0で競り勝ち、長崎総合科学大付は桐光学園（神奈川）に2-0で完勝。滝川二是秋田商を2-0で退け、東海大仰星は藤枝明誠（静岡）を2-1で下した。

# 徳島市立 初戦突破

西	中	南	北	東
○	△	□	×	■
△	○	■	□	×
○	△	×	■	□
■	○	□	△	○

徳島市立・河野博幸監督  
初戦の難しさからか  
互いに立ち上がりは硬か  
つた。ミスもあり、後半

帝京長岡対徳島市立 後半、競り合つ徳島市立の郡<sup>田</sup>と帝京長岡の安井＝浦和駒場



冷静な判断 同点弾導く

上がりの矢先で嫌な空気が流れた。  
しかし「選手がより前に出るきっかけに  
なった」と河野監督。パス回しのテンポが  
上がり、2分後、右サイドからFW小阪が  
水田とのワンツーでゴール前へ。トラップ  
が乱れた小阪は「バスに切り替えた」。瞬  
時の冷静な判断で、郡の同点弾を導いた。  
「最低限の仕事ができてほっとした」と  
郡。プロ選手になるのが将来の夢で、徳島  
ヴォルティスジュニアユース時代はバスで  
周りを生かすスタイルに特化していたが、  
高校入学後は「アピールするためには、得  
点力が必要」とゴールを意識するようにな  
った。練習時から常に位置取りを考え、シ  
ュートの精度を高めてきたことが高校最後  
の大舞台で生きた。(藤畠慶祐)

に失点したのは反省がPKも含めて勝てたのがよかつた。

鹿島市立一〇一  
(PK54) 一  
鹿島市立第一小学校  
新潟県長岡市

が、PKも含めて勝てよかったです。

山梨	栃木	佐賀	宮城
愛媛	福岡	大分	和歌
1	1	2	2
1	0	2	0
0	0	0	0
0	0	0	0
館	和	三	海
岡	歌	重	
山	川	重	
學			

云	北	西	東
安	廣	濟	正智深谷
慶	兵	長崎總合	玉
城	川	大富合	2
國	庫	2	2
2	2	1	2
20	0	1	20
10	0	0	1
1	0	0	立
山	秋	桐光学園	天
高	田	神奈川	大
川	商	島根	根
等			
園			

爵	前	天	星	東海	鹿兒	福尚
爵	尊	海	大	島城	島志	
馬	阪					
矣						
3		2		1	4	
2		1	1	0	3	
1		1	0	0	1	
0		0	0	0	2	
0		0	0	0	0	
明	明	北	福	飛	學	ル
德	德	陸	福	院	院	ル
知	知	本	本			
藝	藝					

緊張するPK戦で、徳島市立の選手は立ち着いていた。誰一人として外すことなく、5人目のエースMF郡を迎えた。「自分がチームを勝たせる」。右足から放たれたボールがネットを揺らし勝利が決まる。と、イレブンは歓喜した。